

令和7年度 一宮小学校 総括評価表Ⅳ(人権教育の推進)

自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
互いに支え合い、励まし合い、ともに伸びようとする仲間づくり	<p>Ⅳ) 人権教育の推進</p> <p>学校・地域が好きな子どもの育成</p> <p>① 児童理解に努め、一人一人の児童を大切にすることを大切にする教育活動を推進する。</p> <p>② 互いに支え合い、励まし合い、互いを大切にすることを大切にする仲間づくりを進める。</p> <p>③ 郷土の学習を進め、聞き取り学習や交流学習などを行うことから、地域に根ざした人権教育を推進する。</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 児童・保護者アンケートによる「楽しい学校」の達成率85%以上</p> <p>①-2 児童・保護者アンケートによる「思いやり」の項目の達成率85%以上</p> <p>①-3 仲間づくりとして、「ありがとうの木」に一人一枚以上カードを書く。</p> <hr/> <p>②-1 児童・保護者アンケートによる「友だちのよさに気づき、伝える」の達成率85%以上</p> <p>②-2 異学年集団での活動を年間3回以上 実施</p> <p>②-3 わくわくタイムを月1回以上 実施</p> <hr/> <p>③-1 1・2年生は、年間5回以上の交流学習や地域学習を実施</p> <p>③-2 3～6年生は、聞き取り学習を取り入れた地域学習を年間3回以上 実施</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①-1 「楽しい学校」の達成率は児童95%・保護者100%となり、児童の指標は目標達成率をかなり上回った。</p> <p>①-2 児童理解の「思いやり」の項目では、児童87%・保護者86%となり、どちらも指標を上回ったが、「全くできていない」と答えた児童もいた。</p> <p>①-3 全学年、「ありがとうの木」に一人一枚以上、カードを書くことができた。</p> <hr/> <p>②-1 「友だちのよさに気づき、伝える」の達成率は、児童78%・保護者72%となり、どちらも指標を下回っていたが、「全くできていない」と答えた児童と保護者はいなかった。一方で、「分からない」と答えた保護者は5%いた。</p> <p>②-2 異学年集団での活動を年間6回実施することができた。</p> <p>②-3 わくわくタイムは、年間17回実施することができた。</p> <hr/> <p>③-1 1・2年生については、年間7回実施することができた。</p> <p>③-2 3年生以上の学年については、3年生は実施できたが、4年生以上では年間1回もしくは2回の実施となった。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>重点目標①については、学校全体として、評価指標を達成できた。今後も引き続き児童理解に努める。</p> <p>重点目標②の「わくわくタイム」については、気候や行事等で中止になることがあり、高学年が中心になって進めることが難しかった。来年度は、気候や児童数減少を考慮し、児童主体とした活動になるよう、内容を見直したい。</p> <p>重点目標③については、地域の教材や地域の人材を有効に活用することができた。今後も、地域の方々にご協力を頂きながら、地域の学習を進めていきたい。</p>	<p>①昨年度と比較して「学校に行くのが楽しい」と回答した児童の割合が高まっており、非常に喜ばしい傾向である。</p> <p>②質問①「学校に行くのが楽しい」と質問⑫「友だちの良いところを見つけ、伝えている」の間には、強い相関関係があると考えられる。友だちに優しくされる喜びが学校の楽しさにつながっていることは、それを感謝として相手に伝える段階までは至っていないようだ。友だちの良さを認識していても、具体的な「伝え方」が分からないという課題があるのではないか。</p> <p>③郷土学習が人権教育の一端を担っていると感じる。今後も、児童の地域への愛着を育むとともに、実際に地域へ足を運ぶ体験や聞き取り調査などの活動を充実させてほしい。地域住民の思いや願いに直接触れる経験は、児童にとって貴重な学びとなるはずだ。</p>	<p>①学校生活が楽しいと感じる児童が増えた。一人一人の児童が充実した学校生活を送れるように、問題に即座に対応できる指導体制を引き続き考えていきたい。また、児童の様子を観察し、共通理解を図るようにしたい。</p> <p>②各学年とも、異学年集団活動により、高学年から低学年に対する接し方には、思いやりのある好意的な対応が見られた。しかし、相手のよさや感謝の気持ちを伝えることが苦手な児童がいるため、引き続き、互いに尊重し合い、思いやりのある集団づくりに努める。</p> <p>③地域の方の協力で、聞き取り学習や地域学習・交流学習を行うことができた。また、地域の方の思いや願いを知ることができた。今後も、地域に根ざした人権学習を推進していく。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①-1 授業及び休み時間等、児童とのかかわりを通して、一人一人の思いや願いの把握に努め、教職員間で共通理解を図る。</p> <p>①-2 「ありがとうの木」に友達のいいところや感謝の気持ちを言葉で伝え、一人一人を大切に尊重し合う心を養う。</p> <hr/> <p>②-1 朝の会や帰りの会で児童のよいところを、互いに認め合う時間を設け、温かい雰囲気の中で仲間づくりをすすめる。</p> <p>②-2、3 子ども主体で進め、高学年が低学年にあわせた活動計画をたてる。</p> <hr/> <p>③ 聞き取り学習や交流学習等、地域教材を核とした人権学習の充実を図る。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 児童一人一人とかわる機会を大切にし、教職員間においても、設定された時間だけでなく、日頃の会話を通して共通理解を図り、児童への対応に努めた。</p> <p>①-2 相手に伝えたい気持ちを持続できるように、学期ごとにカードの色をかえたり、教員が児童へ言葉がけをしたりするなど、支援を行った。</p> <hr/> <p>②-1 友達のよさに気づき、互いに認め合う機会を設けることで、仲間づくりを常に意識できるようにしてきた。</p> <p>②-2、3 本年度からわくわく読書を取り入れ、高学年が低学年に合わせた活動や読み聞かせ、お世話ができた。</p> <hr/> <p>③ 低学年では、オープンスクールで秋のフェスティバルを行い、地域の人と交流を深めた。中・高学年においては、総合的な学習の時間の中で「一宮小唄」「一宮城趾」「一宮橋」「木村和蔵先生」「識字学級」等、発達段階に応じて学習できた。</p>			

「総合評価」における「評定」の基準 A：十分達成できた、 B：概ね達成できた、 C：達成できなかった